

HAL だより

Hokkaido Agricultural Laboratory
for Business Development



HAL The 10th HAL Agricultural Award 農業賞



Vol.37 2015.Special Issue

特別号

HAL
だより

Vol.37 2015.Special Issue

発行日 2015年1月26日発行 (通巻37号)

発行 一般財団法人 北海道農業企業化研究所

〒061-1405 北海道釧路市戸隠193番地6 TEL 0123-35-2110 FAX 0123-35-2120

これまでのHAL農業賞受賞団体・個人一覧

HAL農業賞 第7回 受賞者一覧

- 最優秀賞
 - 指導支援部門 優秀賞
 - 地域貢献賞
 - 地域貢献賞
- ・十勝はる麦の会(芽室町)
 - ・有限会社 どさんこ農産センター(赤井川村)
 - ・株式会社 輝楽里(江別市)
 - ・山の会(せたな町、今金町)



HAL農業賞 第8回 受賞者一覧

- 優秀賞
 - 地域貢献賞
 - チャレンジ賞
- ・株式会社 大野ファーム(芽室町)
 - ・有限会社 半田ファーム(大樹町)
 - ・有限会社 藤井牧場(富良野市)
 - ・農事組合法人 ぴりかファーム(今金町)
 - ・有限会社 ほなみ(南幌町)
 - ・株式会社 みよい(森町)



東日本大震災被災農業者の
挑戦にエールを!

伊達市で再起を期す宮城県亘理町イチゴ生産者グループ

HAL農業賞 第9回 受賞者一覧

- 優秀賞
 - チャレンジ賞
- ・森浦農場 株式会社アグリD・S森浦(芽室町)
 - ・前田農産食品合資会社(本別町)
 - ・大平畜産工業株式会社(鹿追町)
 - ・有限会社 大和納華(旭川市)



HAL農業賞 第10回の節目によせて

「農業企業化」という耳新しい冠を付けた研究所がこの北海道に誕生したのは、平成15年12月のことでした。当時は、株式会社の農業参入が話題になっていたこともあり、当初は「その支援をする団体か」と思われたりもしました。私たち北海道農業企業化研究所(HAL財団)は、まず「経営的視点に立って展開する農業者の生産活動をサポートし、北海道農業をより力強いものとしていくことを願って設立された組織です」と自分たちについて説明するところからスタートし、

1 農業を取り巻く環境変化に左右されない安定した農業経営を目指す農業者をサポートし、
2 生産・流通・販売が一体となった組織的機能を持つ農産物流通の確立を通じて
3 北海道の基幹産業である農業の安定的発展に寄与すること
を基本理念として、「生産者」から「経営者」へ、「家業」から「地域企業」へを合い言葉に活動を進めてきました。

このような方向に向かって取り組んでいる農業者を応援・励ますために、北海道農業企業化研究所(HAL財団)が平成17年に創設したのが「HAL農業賞」でした。創設理念は「地域農業を支え、その発展向上を目ざして独創的な組織運営を行い、農業生産技術の向上や加工、流通開発に取り組む法人及びその活動を支援する個人・組織を表彰する」というものです。

こうした視点に立って、挑戦する農業法人などの発掘に努め、毎年、大賞をはじめとする各賞を贈賞してきましたが、この度、第10回となるHAL農業賞贈呈式を迎えることができました。創設以来のご支援、ご協力、本当にありがとうございます。

これまでの受賞者は、各賞合わせて46組に及びます。受賞者の皆さんはそれぞれの地域で創造的な活動が続けておられ、また、HALフェロースhipメンバーとして、HAL財団の活動にも積極的に参加協力していただいていることに改めて感謝申し上げます。

HAL農業賞創設当時、農業団体などの主催する大きな賞が複数ありましたが、その後廃止や縮小が相次いでいます。HAL農業賞は、決して大きな賞ではありませんが、過去の実績のみならず、将来の農業経営ビジョンなど、未来に向けたチャレンジを激励する賞として、これからも継続していきたいと考えております。北海道農業を愛する多くの皆さんのお力添えをいただければと思います。

10年の歴史を重ねてきた「HAL農業賞」を、どうぞこれからもよろしくお願いいたします。そして、農業環境が大きく変化し、厳しさを増す中で、さまざまな取り組みを続ける北海道農業企業化研究所(HAL財団)の活動にも、変わらぬご支援、ご協力をいただきますよう重ねてお願い申し上げます。

一般財団法人北海道農業企業化研究所
理事長 磯田 憲一



第10回 HAL農業賞

HAL農業賞は平成17年、北海道農業の持続的発展のため、優れた農業経営により地域に貢献している個人・組織や、先進的な取り組みに果敢にチャレンジする個人・組織を表彰する賞として、HAL財団によって創設された賞です。これまでに46組の生産者・団体を表彰し、優れたビジネスモデルの実践者として広く紹介してまいりました。

10回目となる本年は15団体がノミネートされ、選考委員会での選考の結果、優秀賞ほか、3団体が各賞を受賞しました。

選 考 委 員

選考委員長	磯田 憲一	一般財団法人北海道農業企業化研究所 理事長
選考委員	杉山 千洋	日本政策金融公庫北海道地区営業統轄札幌支店長
	堀江 英一	北海道農業法人協会 会長
	原田 和夫	有限会社原田産業 会長
	中村 眞	一般財団法人北海道農業企業化研究所 専務理事
	小滝 聡	一般財団法人北海道農業企業化研究所 評議員

第10回

The 10th HAL Agricultural Award

HAL農業賞

受賞者発表

農業と地域の未来に向けたビジネスモデルを
高い理念と強い意欲で実践する試みを表彰する



受賞理由

- 都市部にあり限られた農地であるが、立地条件を活かし都市部ならではの六次化を具現化させた。
- 年間を通した収益基盤を構築するために、新たなメニュー開発など積極的にチャレンジしている。
- 同社の六次化（飲食直売所）が地域の中核となり、ほかの農家でも直売所を開設するなど波及効果がある。

農業生産法人 株式会社フラワーファーム大花園

代表取締役 大西 到氏

特別賞 (都市近郊型農業推進)

農業生産法人
株式会社フラワーファーム大花園
〔札幌市〕

代表の大西到氏は昭和57年に新規就農し、切り花生産を中心に経営を展開。平成2年に株式会社フラワーファーム大花園として法人化した。

平成17年以降はハウス栽培のトマト、イチゴ、サツマイモなどの栽培に力を入れるように。同時に住宅街から行楽地へと向かう道路沿いという立地を活かし、テイクアウトのイチゴパフェの販売を開始しました。口コミで顧客が増えたことから、平成26年にイトインスペースを備えた店舗を新設。清田区真栄産ホウレンソウやトマト、北区篠路産レタス、南区石山の卵、当別町のポークなど、地元近郊の素材を使ったサンドイッチやジェラートなどの販売メニューを充実させました。現

在は「六次産業化・地産地消法」に基づく「総合化事業計画」の認定を受け、専務の大西智樹氏を中心にサツマイモ、加工用トマトなどを活用した新商品の開発・加工販売による所得の向上と経営の安定化に取り組んでいます。

智樹氏は「NPO法人農業塾風のがっこう」理事、「札幌アグリネットワーク」(若手農業者団体)代表などを務め、社会貢献活動も積極的にを行っています。積極的な六次化によって都市化が進む札幌での農業継続を可能とし、若手のよき相談相手となつて農業の技術や経営を伝え、ともに考えている農業法人経営者です。



受賞理由

- 転作をきっかけに、地域の特性にあった作物を栽培。自ら販路を大きく開拓し、全国一の栽培面積を誇るまでに成長した。
- 栽培技術にたゆまぬ努力・工夫を重ね、食感、糖度、大きさ、出荷期間の長さなどが市場から大きな評価を得ている。
- 法人として「地域への貢献は使命であり、いちばんの仕事」という理念を掲げ、農地の遊休化を避けるため、積極的に受け皿となっている。
- 地域の農業生産法人の中核として、地元の人の採用に貢献している。
- JGAP認定取得し、事故防止及び従業員教育に活用している。
- 従業員社宅の整備など、雇用環境の充実を図っている。

農業生産法人 株式会社天間農産本舗

代表取締役 天間 幸博氏

優秀賞

農業生産法人
株式会社天間農産本舗
〔富良野市〕

富良野市の中心部から15 kmほどの山間部で、ブランドスイカ「ひぐまのこちそう」を生産・販売する天間農産本舗。そのスイカ作付面積は20 ha(平成26年)と、日本一を誇ります。

代表の天間氏は、かつては稲作を行っていましたが、所有する農地は石の多い傾斜地である上に水は冷たい湧水で、稲作にはあまり適していませんでした。その一方で、近隣の御料地区では昭和40年ごろからスイカ栽培を開始しており、「みそのスイカ」として市場評価を受けていました。そこで、富良野市がワイン造りを始め、地域全体がぶどう栽培に向かった昭和47年に、稲作からブドウとスイカの栽培に転作。販売では先行する地域ブランドに苦戦しました

が、9月まで出荷できる北海道産の強みを活かして九州に進出、品質と長期の安定出荷が市場で高い評価を得ました。今では小売店側から「ヒグマはある？」とオーダーされるほどになっています。

天間氏は農業委員会在任中、地域の人口減・農業従事者の減少を客観的に見て、「地域を守るのは自分たちしかない」と決意。農業を力強く進めるための手段として、法人化を選択しました。従業員が働きやすい環境を作ることが経営者の使命と考え、就業規則や福利厚生や社宅を整備するなど、より良い雇用環境の充実を図っています。その結果が従業員の増加・定着に繋がり、手間のかかるスイカ栽培の継続・拡大を可能にしています。



受賞理由

- 新規就農者が当初から法人を設立するという取り組みは非常にチャレンジ精神にあふれ、意欲的である。
- それまでの社会人経験を活かし、経営計画や資金計画も合理的で、就農・法人設立を実現している。
- 今までになかった新規就農、法人設立というパターンであるが、一つのモデルパターンになると考えられ、大いに期待できる。

農業生産法人 株式会社へその国から

代表取締役 三嶋 隆司氏

チャレンジ賞

農業生産法人
株式会社へその国から
〔富良野市〕

「北海道の農業には競争力があり、多くのビジネスチャンスがある」と考えて農業に飛び込んだ二人が、富良野市内の農業生産法人で研修を受け、平成26年の新規就農と同時に設立したのが「株式会社へその国から」です。メンバーは異業種での就労経験があり、経営やマーケティングについての豊富なノウハウを持つことから、時代の流れを捉えたスピード感のある事業運用・展開が期待されています。

生産は15 haの借地で行っていますが、今後5年間ですべて買い取ることで地主と合意しており、資金運用についても明確な設計がなされています。平成26年には、馬鈴薯、スイートコーン、カボチャ、小麦、メロン、キャベツなどを栽培。平成27年

以降は平成26年に作付できなかったタマネギを主力に、栽培品種を徐々に増やしていく計画を立てています。

経営理念は、①挑戦・新たなアイデアをもとに社会的に意義のある新たな価値の創造 ②貢献：次世代の担い手の育成 ③地域経済への寄与と地域雇用問題の解決 ④発展：新たなビジネスモデルの構築、という3点。高い理念を明確なビジョンのもとに実現しようとしており、新しい経営感覚を持った農業生産法人の誕生として期待されています。



受賞理由

- 新規参入であるが、自らが持つスキル(栽培と販売)に合った作物を栽培し、販路を開拓し取引先から大きな信頼を得ている。
- 法人の理念：①最低でも10年間は納税ができること ②雇用が過去より増加していること ③社会的な信用があること(＝借金が出る事)を掲げ、事業を展開している。
- 地域の農業法人の中核として、地元の雇用に貢献している。(A市：9名、B町：13名)

農業法人 有限会社ブルーム

代表取締役 齋藤 伸二氏

地域貢献賞

農業法人
有限会社ブルーム
〔音更町〕

有限会社ブルームは、一季成りイチゴ品種「さがほのか」を主力としたイチゴ生産に特化した企業です。代表の齋藤伸二氏は、家業の生花店で働いていましたが、イチゴ栽培を勧められて(急発起し、平成16年に新規就農しました。同時に農業者である知人と法人を設立、ハウス1棟での栽培からスタートして2年目には5棟となり、現在は17棟のハウスでの栽培を行っています。

販路は生花店時代の人脈を活かして開拓し、多くを高級洋菓子店に直接販売しています。ブルームが生産するイチゴは、固くて甘いという特徴があり、送り先で数日間冷蔵保存が可能。悪天候が予想されるときには、予め多めの量を先方に送るなどの対応をしており、創業から11年

間に渡り欠品なしの完納を実現。これが大きな信用に繋がっています。

齋藤氏が考える経営理念は、①最低でも10年間は納税ができること ②雇用が過去より増加していること ③社会的な信用があること(＝借金が出る事)という3点。事業展開とともに積極的に雇用を増やしており、現在は役員を除き22名の従業員が働いています。大きな雇用の受け皿となっており、今後の成長への期待も大きく、地域を活性化している農業生産法人といえます。

HAL農業賞 第4回 受賞者一覧

- HAL農業賞神内大賞
 - ・農業生産法人 有限会社 西神楽夢民村(旭川市)
- 経営部門 優秀賞
 - ・株式会社 白糖酪恵舎(白糖町)
- チャレンジ賞
 - ・LLP十勝ナチュラルチーズプロダクツ(十勝管内)
- 地域貢献賞
 - ・ファームひなたんぼ 有限会社 ひな田屋(当別町)



HAL農業賞 第1回 受賞者一覧

- HAL農業賞神内大賞
 - ・有限会社 谷口農場(旭川市)
- 経営部門 優秀賞
 - ・ノースプレインファーム株式会社(興部町)
 - ・農業組合法人 西上経営組合(鹿追町)
- 経営部門地域特別賞
 - ・株式会社 もち米の里ふうれん特産館(名寄市)
- 経営部門チャレンジ賞
 - ・有限会社 山崎ワイナリー(三笠市)
 - ・有限会社 想いやりファーム(中札内村)
- 指導支援部門チャレンジ賞
 - ・株式会社 アグリスクラム北海道



HAL農業賞 第5回 受賞者一覧

- HAL農業賞神内大賞
 - ・有限会社 和田農園(帯広市)
- 特別賞
 - ・ノースプレインファーム 株式会社(興部町)
 - ・株式会社 もち米の里ふうれん特産館(名寄市)
- 優秀賞
 - ・有限会社 原田産業(倶知安町)
 - ・有限会社 大沼肉牛ファーム(七飯町)
- チャレンジ賞
 - ・有限会社 ジェイファームシマザキ(別海町)



HAL農業賞 第2回 受賞者一覧

- HAL農業賞神内大賞
 - ・有限会社 無限樹(苫前町)
- 経営部門 優秀賞
 - ・アオキアグリシステム有限会社(倶知安町)
 - ・有限会社 十勝しんむら牧場(上士幌町)
- 放牧酪農チャレンジ賞
 - ・株式会社 あしよる農産公社(足寄町)
- 地域直売運営チャレンジ賞
 - ・ニセコビュープラザ直売会(ニセコ町)
- 酪農イメージアップチャレンジ賞
 - ・酪農家集団 AB-MOBIT(根室市)



HAL農業賞 第6回 受賞者一覧

- HAL農業賞神内大賞
 - ・有限会社 北幸農園(富良野市)
- 北海道農業貢献賞
 - ・谷口威裕氏(旭川市、株式会社 谷口農場 代表取締役)
- 特別功労賞
 - ・駒谷信幸氏(長沼町、農事組合法人 駒谷農場 代表理事長)
- チャレンジ賞
 - ・黒千石事業協同組合(北竜町)
 - ・有限会社 天心農場(中富良野町)
 - ・津別町有機農業推進協議会(津別町)



HAL農業賞 第3回 受賞者一覧

- HAL農業賞神内大賞
 - ・農業生産法人 有限会社 北海道ホープランド(幕別町)
- 経営部門 優秀賞
 - ・有限会社 余湖農園(恵庭市)
 - ・有限会社 夢がいっぱい牧場(大樹町)
- チャレンジ賞
 - ・有限会社 緑友会六輪村(北斗市)
- 地域特別賞
 - ・農事組合法人 オーガニック新篠津(新篠津村)
- 地域特別賞
 - ・有限会社 仲野農園(長沼町)

